

CASBEE大阪 OF THE YEAR 2012 表彰候補建築物 採点結果一覧

部門別No.	商業施設その他 No.1								
建築物名称	ラウンドワン・スタジアム千日前店								
建築主	(有)アールワン難波								
設計者	鹿島建設(株)								
建設地	中央区難波1丁目								
建物用途	遊戯施設								
ランク	A	BEE値	2.5	公表	H22-38	竣工年月	H24年4月	受付	H22-10

【CASBEE大阪みらいの総合評価】

(BEE値を15点満点に換算)	9.8 / 15
-----------------	----------

A

【設計上の配慮事項等の評価】

①独創性・先進性		
<ul style="list-style-type: none"> ・創意工夫がなされ独創的な取組があるか ・新しい技術が活用され先導的取組があるか 		
岩前委員長	商業施設としてよく検討されているが、取組は月並である。	4
大久保委員	アミューズメント施設として、とるべき対策が適切にとられている。	3
田中委員	スタジアムを模したバルコニーの設置など特に近隣商店街への配慮を中心とした創意工夫が行われている。	4
西岡委員	屋上パッティング施設騒音対策に見られて近隣への配慮あり。	3
福田委員	都心防音配慮型アミューズ施設の実現。 従前躯体(別オーナー)利用。	4
②調和性・統合性		
<ul style="list-style-type: none"> ・計画内容は合理的で効率的か ・計画内容は、建築デザインにうまく取り込まれているか。 また、周辺まちなみとの調和を図っているか 		
岩前委員長	タイトな周辺空間で緑化をうまく行っている。	4
大久保委員	周辺地域自体が派手なエリアではあるが、調和という点で積極的に評価できる点は少ない。	2
田中委員	旧ビルの躯体を利用し、平面計画により省エネを図る等の合理的な取組を行っている。	4
西岡委員	アーケード側ファサード、違法駐輪を無くす目的で設置された駐輪場など近隣と協調がみられる。	4
福田委員	EVシャフトの工夫。 駐輪場。	3
③取組姿勢		
<ul style="list-style-type: none"> ・建築主の環境配慮への積極的な取組姿勢が伺えるか。 また、その取組姿勢が、他の建築主の規範となりうるか 		
岩前委員長	建設会社からのプロポーザルを受け入れただけのような印象を与える。 近隣との調和は規範となりうる。	3
大久保委員	駐輪対策は意欲的。	4
田中委員	駐輪問題が解決されるなど、取組の成果が見られることなどに建築主の積極的な姿勢があり、評価できる。	4
西岡委員	無理のない取組み範囲で取組んだ結果A評価を得たことは価値がある。	4
福田委員	地元商店街との連携。	3

計

11

9

12

11

10

合計

10.6 / 15

B

※ A+B×10/15 が評価点の合計(25点満点)となる。

評価点の合計

16.9

CASBEE 大阪 OF THE YEAR 2012 表彰候補建築物 ラウンドワン・スタジアム千日前店

所在地：大阪市中央区難波1丁目3-1

主用途：遊戯場

事業者：(有)アールワン難波 (SPC)

設計者：鹿島建設(株)関西支店一級建築士事務所
(インテリア：(株)丹青社)

■建築概要

延床面積：19,490.41㎡

階数：地下2階 地上11階

構造：鉄骨造

竣工：2012年4月

■CASBEE 大阪における評価

サステナビリティランキング：A

建築物の環境性能効率(BEE)：2.5

■特徴

大阪ミナミ、旧OSビル跡地に建つラウンドワンのフラッグシップ店である。なんばウォークと地下接続し、難波駅から抜群のアクセス条件をもつ。ボウリング42レーン・フットサルコート・スケートリンク・屋外バッティングセンターといったスポーツ・アミューズメントのみならず、カラオケ42ブース、ポールプールといったキッズ用スペースを設けることで、ファミリー層もターゲットとしている。下記の点から本建物の環境配慮を行った。

<独創・先進>

- 1：地下既存躯体を利用した建物計画
- 2：外部熱負荷を軽減する設備系シャフトと屋根の工夫

<調和・統合>

- 3：地下接続スペースを利用した自然換気・採光/安全性向上/バリアフリーへの寄与

<取組姿勢>

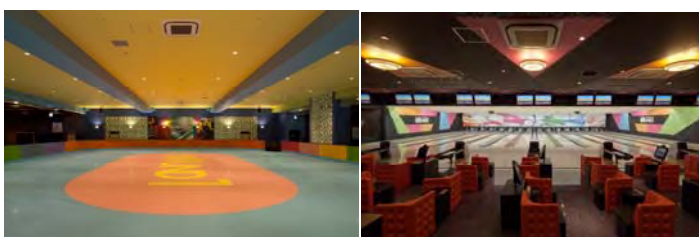
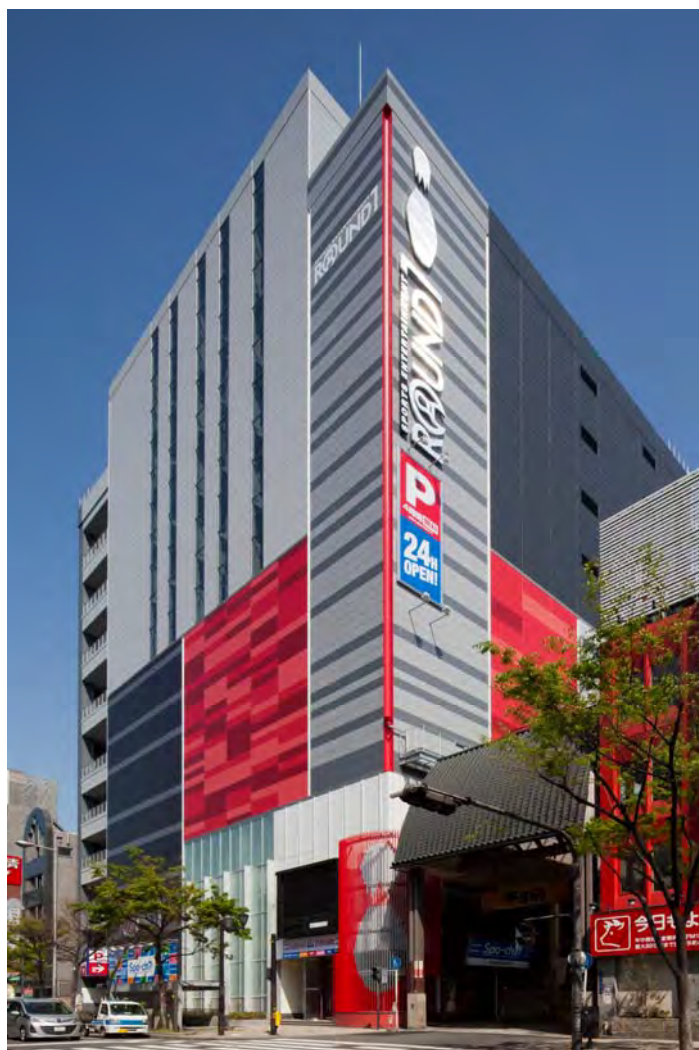
- 4：周辺違法駐輪を減らす取り組み
- 5：近隣商店街との連携したフォトコンテスト開催
- 6：千日前への多彩なにぎわいの工夫

1：地下の既存外周躯体を残し、新躯体をそのなかにすっぽりに入れ込む地下躯体計画とし、杭の無い直接基礎とすることで掘削土量や建設廃棄物を大幅削減。

2：西面のPSDS集中配置/南面のシースルーエレベータシャフトを利用した重力換気/屋上バッティング集球床を利用による屋根への日射遮蔽。北東のシンボルツリー配置や壁面緑化や屋上緑化も行っている。

3：玄関楕円形ルーバーシャフトを利用して地下の採光と換気を行い、地上の玄関シンボルとしてデザイン。待合せスポットとしてベンチを設置。またシャフト近傍に福祉エレベータとエスカレータを配置。

4：敷地北側に建物利用者に限らない公共駐輪場を完備。地下にも屋内駐輪場を設置。(当時の付置義務台数を大幅に上回った台数を確保。)



5：建設期間中に「親と子のきづな」と題したフォトコンテストを実施。商店街アーケード側の工事用仮囲いを利用してフォトギャラリーを設置。

6：スタジアムを模したバルコニー・商店街のシンボルツリー・交差点側のシースルーEVとLEDビジョンなどで千日前に活気を呼び戻す工夫を行っている。

CASBEE 大阪 OF THE YEAR 審査・選考基準

1 選考にあたっての基本的考え方

選考にあたっては、以下の事項を総合的に考慮して審査を行う。

(1) CASBEE 大阪みらいの総合評価結果（BEE 値を指標とする評価）

(2) 大阪市の重点評価項目の評価結果

（※平成22年度以前の届出物件が候補にある場合、使用しない）

- ① CO₂削減
- ② 省エネ対策
- ③ みどり・ヒートアイランド対策

(3) 設計上の配慮事項等の評価結果（各委員の評価）

下記の視点で審査を実施

- ① 独創性・先進性
 - ・ 創意工夫がなされ独創的な取組があるか
 - ・ 新しい技術が活用され先導的取組があるか
- ② 調和性・統合性
 - ・ 計画内容は合理的で効率的か
 - ・ 計画内容は、建築デザインにうまく取り込まれているか。また、周辺まちなみとの調和を図っているか
- ③ 取組姿勢
 - ・ 建築主の環境配慮への積極的な取組姿勢が伺えるか。また、その取組姿勢が、他の建築主の規範となりうるか

2 選考の具体的方法

(1) 審査用資料を基に、【CASBEE 大阪みらいの総合評価】、【大阪市の重点評価項目の評価】に加え、具体的な環境配慮事項について、必要に応じて現地確認を行い、「独創性・先進性」、「調和性・統合性」、「取組姿勢」の3つの視点による審査を行い、【設計上の配慮事項等の評価】を実施する。

(2) 評価にあたっては、下記の評価点算定表による点数方式を採用し、各評価項目について評価点を算出し、これを基本として「大阪市建築物環境配慮推進委員会」で審議の上、以下の受賞建築物を選考する。

ただし、各賞について「該当なし」の場合もありうるものとする。

- 最優秀賞 : 下記のうち最も優秀なもの 1 件
- 住宅部門賞 : 住宅のうち優秀なもの数件
- 事務所部門賞 : 事務所のうち優秀なもの数件
- 商業施設その他部門賞 : 商業施設その他のうち優秀なもの数件

評価点算定表

評価項目		評価点(配点)		評価点の算定方法
(1) CASBEE大阪みらいの総合評価	BEE値	15		$(BEE \text{ 値} - 1) / A \times 15 \text{ 点}$ ($A = BEE \text{ 値}_{\text{max}} - 1$)
(2) 大阪市の重点評価項目の評価 (※平成22年度以前の届出物件が候補にある場合、使用しない)	各評価項目のレベル	5	重点評価項目	
			重点評価のレベル	
			CO ₂ 削減	1.0~5.0
			省エネ対策	1.0~5.0
			みどり・ヒートアイランド	1.0~5.0
各重点評価項目毎に下記計算を行う (重点評価のレベル-1) / 4.0 × 5 点 重点評価3項目の点数の平均を(2)大阪市の重点評価項目の評価点とする				
(3) 設計上の配慮事項等の評価	①独創性・先進性	(5/1.5)	10 (15/1.5)	素晴らしい 5点 ↑ 4点 3点 2点 ↓ 普通 1点
	②調和性・統合性	(5/1.5)		
	③取組姿勢	(5/1.5)		

① 評価点・配点の考え方

(1)CASBEE 大阪みらいの総合評価についての算定方法

$$\text{評価点} = (BEE \text{ 値} - 1) / A \times 15 \quad (A = BEE \text{ 値}_{\text{max}} - 1)$$

上記により算出する(小数点第2位を四捨五入する)。

ただし、「BEE 値_{max}」は、審査用資料の提出のあった中で最もCASBEE 評価の高い物件のBEE 値とする。

(2)大阪市の重点評価項目の評価についての算定方法

重点評価項目ごとに次の計算を行う。

$$(重点評価のレベル - 1) / 4.0 \times 5$$

上記により導かれた各重点評価項目の点数を相加平均し(小数点第2位を四捨五入する)、評価点とする。

(3) 設計上の配慮事項等の評価についての算定方法

評価の視点の各項目について、各委員の評価点(5段階評価)を相加平均し(小数点第2位を四捨五入する)、さらに1.5で除する(小数点第2位を四捨五入する)。

上記により導かれた評価の視点の各項目の点数を合計し、評価点とする。

附 則

1及び2の選考方法を基本とし、必要に応じて見直すものとする。